

第三章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに」
「友達どうしで力を合わせて」

p.106
～
p.107

中心資料

小学校 道徳の指導資料とその利用3
昭和五十五年三月 文部省 「絵葉書と切手」

【主題名】

本当の友達

第三学年及び第四学年 2-③

【ねらい】

「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」
「友達と互いに理解し、信頼し、助け合いながら、友情を深めていく」という心構えを育てる。

《ねらいとする道徳的価値》について《三・四年生の時期の児童は、気の合う友達同士で仲間をつくり自分たちの世界を確保して楽しもうとします。集団での活動が盛んになるのに伴い、友達と衝突してしまうことも増えます。友達の大切さや、自分がどのように友達に接しているかを振り返らせながら、互いに理解し合い、信頼し合い、助け合える関係を築く」という姿勢を身に付けさせることが大切です。



「ともだちはいいもんだ」をみんなで歌いましょう。

○「心しなやかに」p.106 「友達どうしで力を合わせて」を活用して、「ともだちはいいもんだ」を歌い、ねらいとする道徳的価値について意識を向けさせましょう。

導入

○定形外郵便の実物を提示し、通常の料金では届かないことを説明すると、資料に入りやすいでしょう。

○教師が「絵葉書と切手」を読み聞かせましょう。



「正子からの葉書を読んだとき、ひろ子はどのような気持ちだったでしょうか。」

○ひろ子と正子が一年のときから仲良しだったことや、正子が転校してしまったことなどに着目させて、はがきを読んだときのひろ子の気持ちを捉えさせましょう。



「百円不足だったことについての母と兄の考えを聞き、ひろ子はどのような考えを考えたでしょうか。」

○母の考えと兄の考えのどちらも納得できるものであることに気付かせ、それぞれの考えを聞いて、どのようにすればよいか迷っているひろ子の様子を捉えさせましょう。

展開

中心発問



「正子への手紙を書き始めたとき、ひろ子はどのような気持ちだったでしょうか。」

○ひろ子が正子とどのように過ごしてきたを想像させながら、互いに理解し合い、信頼し合っていることを自覚して、手紙を書き始めるひろ子の心情を捉えさせましょう。

《評価》 友達と互いに理解し合い、信頼し合える関係を築いていくことの大切さに気付くことができたか。



「友達がいてよかったと思うときはどんなときですか。」

○「心しなやかに」p.106 の「友達がいてよかったと思うときは、どんなときですか。」に記入させ、発表させましょう。

○教師自身が、互いに理解し合い信頼し合って友情を深められた経験を、子供たちに語りましょう。

○「心しなやかに」p.16 「友だち」をみんなで読み、友達の大切さを確かめて、授業のまとめにしましょう。

終末

【資料の特徴】 中心資料の「絵葉書と切手」は、転校した友達から届いた絵葉書が定形外だったため不足料金を払ったことを、その友達に知らせるべきか迷う女の子の姿を描いた読み物です。「友達どうしで力を合わせて」は、友達のよいところを見つけて記入したり、「ともだちはいいもんだ」の歌詞を読んで互いに仲良くしていくための方法について話し合ったのできるペーシになっています。

板書例

えはがき

絵葉書と切手

正子からの葉書を読んだとき、ひろ子はどのような気持ちだったでしょうか。

- 正子さんが葉書をおくってくれて、うれしい。
- すてきなけしきの絵葉書だな。わたしも行ってみよう。
- 正子さんが元気そうでよかった。また会いたいな。

百円不足だったことについての母と兄の考えを聞き、ひろ子はどのようなことを考えたでしょうか。

- 百円不足だったことを手紙に書いたら、きっと正子さんは、いやな思いをするにちがいない。
- 母の言うとおり、お礼だけ書いておけば、正子さんもういやな思いをせずにすませることができる。
- 正子さんが本当のことを知らないままだったら、どうなるだろう。ほかの人にも同じように葉書をおくってしまうかもしれない。
- 自分が正子さんの立場だったらどうだろう。教えてほしいだろうか。いやな思いをするだろうか。

正子への手紙を書き始めたとき、ひろ子はどのような気持ちだったでしょうか。

- 正子さんがほかの人にも同じように葉書をおくってしまわないように教えてあげるのが、友達としてのわたしのやくめだ。
 - わたしたちはいつも、相手のことを考えてなかよくしてきた。百円不足だったことを書いても、正子さんは気を悪くしたりしない。
 - わたしが正子さんの立場だったら、正直に言ってほしいと思う。きっと正子さんと同じ気持ちにちがいない。
- 友達がいてよかったと思うときは、どんなときですか。

- ペン強が分からなくてこまっていたときに、ほうかごにっしょにのこって、ていねいに教えてくれたとき。
- 別の友達のことややんでいたときに、話をしんけんに聞いてくれて、どうすればいいかアドバイスをしてくれたとき。
- 運動会の五十メートル走でわたしが1位になったとき、自分のことのようにいっしょによるこんでくれたとき。

《評価》 友達と互いに理解し、信頼し、助け合いながら、友情を深めていく心構えを育てることができたか。